

平成16年5月14日
長野県協同電算

アッカ・ネットワークス殿への反論

アッカ・ネットワークス殿が提出した寄書(「JJ100.01第2版改定のポイント(SMS-11-ACCA-02)」)に反論する。

貴社は、寄書の中で「上り信号帯域の上限(議長提案の”aaa”)は276kHzとする」と述べている。しかし弊社は、180kHz程度(DMT方式のADSLの場合、おそらく180kHz - 184kHz付近)にすべきであると考え、あるいは1104kHz - 3750kHzまでの周波数帯域に上り拡張システムを実装すべきであると考え。

以下に、弊社が180kHz程度にすべきであると考え理由を述べる(「1104kHz - 3750kHzまでの周波数帯域に上り拡張システムを実装すべきである」との考えについては、弊社が提出した別寄書を参照のこと)。

- 1) アメリカ合衆国では、過去に180kHz付近までの周波数を上り伝送で使用するCAP方式のADSL回線が多数収容され、今もDMT方式のADSL(G.992.1AnnexA)回線と併用して使われている。今のところ、CAP方式のADSL回線からDMT方式のADSL回線への干渉がとりわけ大きな問題になったことはない。しかしアメリカ合衆国では、これまで280kHz付近までの周波数を上り伝送で使用するADSL回線が収容された事例はない。したがってアメリカ合衆国の事例からは、280kHz付近までの周波数を上り伝送で使用するADSL回線が既存ADSL回線に及ぼす影響を考察することができない。また弊社が知る限り、アメリカ合衆国だけでなく、他の国々においても280kHz付近までの周波数を上り伝送で使用するADSL回線が収容された事例はない。他の国々に事例のない周波数付近まで上りを拡張したADSL回線を実装するのは回避すべきである。
- 2) アメリカ合衆国では、過去に180kHz付近までの周波数を使用するHDDSL回線が多数収容され、今も既存ADSL回線と併用して使われている。しかし280kHz付近までの周波数を使用するSDDSL回線やSHDSL回線、あるいは400kHz超の周波数を使用するSDDSL回線やSHDSL回線は、HDDSL回線ほど多く収容されていない。またSDDSL回線等の収容は、HDDSL回線よりも強く規制されているように思える。CAP方式のADSL回線だけでなく、他のxDSL回線の収容事例を考慮しても、ADSL回線の上り拡張は180kHz付近までが妥当である。
- 3) 実線を使った弊社の実験によれば、180kHz付近までの周波数を使用するHDDSL回線が既存ADSL回線に及ぼす影響は、さほど大きくない。しかし280kHz付近までの周波数を使用するSDDSL回線が既存ADSL回線に及ぼす影響は、非常に大きい。したがって弊社としては、上り拡張システムの実装は、180kHz付近を限度とすべきであると考え。

以上。